

1)

担当: 星野

題: 電子たばこは若年成人の呼吸器症状のリスクを増加させる

結論: 電子たばこ使用者は喘鳴などの呼吸器症状が有意に多い

原題:

Xie W et al. Association of electronic cigarette use with respiratory symptom development among U.S. young adults.

Am J Respir Crit Care Med 2022 Jun 1; 205: 1320.

本文:

電子たばこ利用者は若年成人で増加しているが、電子たばこによるリスクの前向きデータは無い。2014年から2019年に6400人の若年成人(18~24才)で集計された米国の年次タバコと健康調査データによれば、12ヶ月時点で電子たばこの使用と呼吸器症状(特に喘鳴のエピソードと非感染性の夜間乾性咳嗽)の出現間隔に関係があるとしている。対象から既存の吸気症状及び疾患は除外されている。

対象コホートの約6%は電子たばこを現在使用中、15%は過去に使用歴あり、10%は可燃性(普通のたばこなど)を喫煙していた。また電子たばこ使用者の半数弱は可燃性たばこを喫煙していた。補正後の分析で、12ヶ月時点で電子たばこ使用者は他のたばこ喫煙者に比べて有意に喘鳴をきたしやすい(25%対14%)ことがわかったが、夜間の乾性咳嗽についてはその傾向は見られなかった。

コメント: 電子たばこはニコチン依存症のゲートウェイとされ、若年使用者の喘鳴関係の呼吸器症状のリスクとなることは明らかである。この報告で電子たばこの使用が好ましくない理由がさらに明らかとなった。

2)

担当: 小林

題: 新規糖尿病患者はメトホルミンの前にSGLT-2阻害薬を投与すべきか?

結論: SGLT-2阻害薬を投与された患者では心不全の入院を減少させるが、メトホルミンより

先に投与することは推奨されない。

原題:

Shin H et al.

Cardiovascular outcomes in patients initiation first-line treatment of type 2 diabetes with sodium-glucose cotransporter-2 inhibitors versus metformin: A cohort study.

Ann Intern Med 2022 May 24; [e-pub].

(<https://doi.org/10.7326/M21-4012>)

本文:NEJM の論文などによれば SGLT-2 阻害薬は心不全での入院を減少させる。しかし、糖尿病患者にガイドラインが 1st line として推奨するメトホルミンより先に SGLT-2 阻害薬を投与する利点については不明である。研究者らは健康保険あるいはメディケアのデータベースから、初期治療として SGLT-2 阻害薬（カナグリフロジン、ダパグリフロジン、エムパグリフロジン）あるいはメトホルミンで治療を開始した 25000 人以上の患者で心血管イベントについて比較した。

平均観察期間 7 ヶ月の時点で、SGLT-2 阻害薬は有意に心不全での入院(1.4% vs. 1.9%/年間)、心筋梗塞(0.5% vs. 0.7%/年間)、心不全に合併する入院、死亡(1.8% vs. 2.4%/年間)を減らした。しかし、SGLT-2 阻害薬では性器感染症が有意に多かった(5.4% vs. 2.4%/年間)。その他の合併症は両者で同等であった。

コメント： (Daniel D. Dresser, MD, MSc, MHM, FACP)

著者らは潜在的な交絡（因子）を少なくすべく相当な努力を払っている。しかし観察期間の短さ、心血管イベントだけに絞ったこと、（メトホルミンと SGLT-2 阻害剤との）大きな費用の差から、これを大規模な患者集団の推定に使うのは難しい。心不全を有する糖尿病患者

では SGLT-2 阻害薬を早期に使用することは有用ではある。しかし、今回の研究結果からは新規糖尿病患者の 1st line としてメトホルミンより先に SGLT-2 阻害薬を投与する根拠とはならない。